

◎人口問題審議会「出生力動向に関する特別委員会報告」

- ①出生率の低下は、今後もしばらく続くが、八十年代は上昇基調に転ずる可能性もある。
- ②しかし出生率が上昇しても、人口を現状維持するまでには回復せず、将来人口の漸減化傾向は免れない。

合計特称出生率 \parallel 一人の女子が出産年齢（十五―四十九歳）の間に何人の子供を産むかという率

一九七五年――一九七九年

一九七九年――一九七七年

（合計特称出生率が、仮に、二・一人で推移した場合、二〇二五年人口の増減がストップする、静止人口の状態になるといわれている）

◎「五十四年度厚生行政年次報告書（五十五年版厚生白書）」

六十五歳以上の老年人口比率

一九七九年 八・九%

一九九〇年 一一%（予想）

二〇〇〇年 一四・三%（予想）

（国連が定義した、「高齢化した社会」とは老年人口比率が七%以上の場合を指す）

厚生年金の保険料

一九七九年 月収の一〇・六%

二〇〇〇年 月収の二〇%程度（予想）

二〇二〇年 月収の三五%程度（予想）